

千葉市立青葉病院 診療科別臨床研修プログラム 外科

I. 研修プログラムの目的および特徴

外科研修の主たる目的は、外科のローテーションを通じて、将来内科系診療科に進む者を含めて、臨床医として必須の基本的な外科的知識・常識を修得することにある。この期間に外科診療の基本を学ぶとともに、広い視野をもって診療にあたる臨床医の育成を目指す。当院は地域の中核病院として、千葉市を中心とした広域の地域の救急を含めて多彩な症例の診療に当たっている。この為、日常多く見られる一般的な疾患から、より専門的な二次医療を含めて多数の症例を経験することができる。

II. 研修指導医

研修責任者	安藤 克彦	医療安全室長	外科全般、腹腔鏡手術、肝胆膵外科
指導医	小田 健司	外科統括部長	消化器一般、食道・胃・大腸外科
指導医	清水 康仁	消化器外科統括部長	消化器一般、腹腔鏡手術、肝胆膵外科
指導医	前田 慎太郎	外科医師	

III. 研修内容と到達目標

1. 一般目標

医師として知っておくべき最低限の外科的常識を日常臨床を通じて身につけ、臨床医・家庭医に求められる基本的な知識・技術・態度を修得する。緊急に外科的治療を要する疾患や外傷に対する迅速な判断力を養うとともに、頻度の高い症状・病態に関する初期診療能力を身につける。また末期医療における全人的アプローチを身につけ、患者の心理社会的側面、宗教観などを考慮した医療の基礎を学ぶ。

2. 行動目標

外科研修期間中、当院外科内の各専門科および希望があれば海浜病院でのローテーションのなかでプライマリーケアに必要な知識・技術を身につける。

A. 外科診療の基本的事項

- 1) 無菌的処置、消毒法など一般外科の基本手技が理解・実践できる。
- 2) 外来での初診から手術に至る検査・診療計画が作成できる。
- 3) 術前・術後管理、ベッドサイドでの処置の手順が説明できる。
- 4) 救急患者に対して適切に即断即決の判断ができる。
- 5) 末期患者に対して、患者個々の人格を尊重し、その生死観その他に即した対応ができる。
- 6) 臨床医として、他医療職種スタッフと協調して患者中心のチーム医療が実践できる。

B. 研修すべき主な診断・検査法

- 1) 術前・術後管理に必要な一般的検査を適切に指示し、その所見を解釈できる。
- 2) 胸部・腹部の単純X線検査の適切な指示ができ、所見が記載できる。
- 3) 心電図を適切に指示することができ、その所見が記載できる。
- 4) 消化管造影検査ができ、その所見が記載できる。

- 5) 各部超音波検査、CT、MRI 検査を適切に指示することができ、その所見が理解できる。
- 6) 核医学的検査を適切に指示することができ、その所見が理解できる。
- 7) 上部・下部消化管内視鏡検査を適切に指示することができ、その所見を記載できる。

C. 経験すべき症状・病態・疾患

- 1) ヘルニア
- 2) 虫垂炎
- 3) 胆石症
- 4) 胃十二指腸潰瘍
- 5) イレウス
- 6) 腹膜炎
- 7) “急性腹症”
- 8) 胃癌
- 9) 大腸癌

D. 研修すべき主な治療法・手術

- 1) 救急患者に対する小外科的処置
- 2) 一般外科患者の術前・術後管理
- 3) 高カロリー輸液，経管栄養
- 4) 腹腔穿刺・ドレナージ
- 5) リンパ節生検
- 6) イレウス管挿入
- 7) 末期癌患者の疼痛管理
- 8) 中心静脈栄養法
- 9) ソケイヘルニア根治術
- 10) 虫垂切除術
- 11) 人工肛門造設術
- 12) 開腹手術（消化器系悪性腫瘍手術を含む）
- 13) 腹腔鏡下手術（消化器系悪性腫瘍手術を含む）

IV. 評価法

1. 外科研修プログラム終了時に、各指導医の総意に基づき指導責任者により総合評価が行われる。
2. 指導医により、各到達目標に対する評価が行われる。
3. 研修医は、各到達目標に対する自己評価表を提出する。